

2017年度通常総会について

2017年度通常総会は2017年4月27日に開催され、以下の議案がすべて原案通り承認されましたので、お知らせします。

第1号議案：2016年度事業報告の件

第2号議案：2016年度決算報告および監査報告の件

第3号議案：2017年度-2018年度新役員承認の件

報告1：2017年度事業計画

報告2：2017年度収支予算

(第1号議案)

2016年度事業報告

事業番号：公1（1本のみ）

事業の内容：オペレーションズ・リサーチの研究・普及啓発を行う事業

【研究発表会・シンポジウム等の開催】

□事業の趣旨・内容

本事業は、研究発表会・シンポジウム等を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

1. 研究発表会

(1) 春季研究発表会

3月17日、18日の両日、慶應義塾大学（矢上）にて開催

実行委員長：栗田 治（慶應義塾大学）

発表件数157件 参加451人

・特別テーマ「実学で切り拓くOR」

・特別講演（一般公開）

1) 「未来を創るセルフ・イノベーション～問題発見力を磨く～」

前刀慎明（(株)リアルディア代表取締役社長、元アップル米国本社副社長兼日本法人代表取締役）

2) 「離散凸解析の世界をひろげる」：研究賞受賞記念講演

塩浦昭義（東京工業大学）

(2) 秋季研究発表会

9月15日、16日の両日、山形大学（小白川）にて開催

実行委員長：古藤 浩（東北芸術工科大学）

発表件数140件 参加307人

・特別テーマ「復興・再生とOR」

・特別講演（一般公開）

1) 「研究室の運営を通じた人材育成」

小山清人（山形大学学長）

2) 「数理最適化と機械学習の相互作用」：研究賞受賞記念講演

武田朗子（統計数理研究所）

2. シンポジウム

(1) 春季シンポジウム

3月16日、慶應義塾大学（日吉）にて開催

実行委員長：田村明久（慶應義塾大学）

テーマ「ビッグスポーツイベントとOR—東京オリンピック・パラリンピックを安全・エネルギー・交通から考える—」講演4件 参加者181人

(2) 秋季シンポジウム

9月14日、山形大学（小白川）にて開催

実行委員長：中山 明（福島大学）

テーマ「再生・復興に向けたORの新たな役割」講演4件 参加者67人

3. ORセミナー

(1) 第1回「統計分析の基本—データを用いて意思決定する方法を学ぼう—」

・6月4日、(株)構造計画研究所にて開催

・コーディネーター／司会：東京ガス 片瀬成識

・講師：野村俊一（東京工業大学大学院）、渡辺美智子（慶應義塾大学大学院）

・参加者29名

(2) 第2回「ExcelソルバーではじめるOR」

・10月15日、(株)構造計画研究所にて開催

・コーディネーター／司会：(株)構造計画研究所 斉藤 努

・講師：後藤順哉（中央大学）、堀田敬介（文教大学）

・参加者47名

(3) 第3回「Python言語によるビジネスアナリティクス」

・11月12日、(株)構造計画研究所にて開催

・コーディネーター／司会：(株)構造計画研究所 斉藤 努

・講師：並木 誠（東邦大学）、斉藤 努（(株)構造計画研究所）、久保幹雄（東京海洋大学）、小林和博（東京理科大学）、橋本英樹（東京海洋大学）

・参加者59名

(4) 第4回「統計分析の基本—データを用いて意思決定する方法を学ぼう—」

12月5日、大阪大学（吹田）にて開催

・コーディネーター／司会：大阪大学 森田 浩

・講師：野村俊一（東京工業大学大学院）、山口和範（立教大学）

・参加者47名

4. 企業事例交流会

(1) 春季企業事例交流会（第37回）を春季研究発表会にて開催

(2) 秋季企業事例交流会（第38回）を秋季研究発表会にて開催

5. 新宿OR研究会

昭和55年創設以来、年間10回の例会を開催しており、2017年2月例会が通算第365回。テーマはOR関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に適ったもので、メンバーの啓発、懇親を行っている。会誌・ホームページ・メールマガジンに開催案内を掲載し、会員の幅広い参加を呼びかけている。現世話人は小池 清会員（フェロー）。

【機関誌、論文誌の刊行及びインターネット等を利用した情報提供活動】

□事業の趣旨・内容

本事業は、機関誌・論文誌の刊行及びインターネット等を利用した情報提供活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

1. 機関誌

機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
2016年3月1日	60	3	2,650部
2016年4月1日	60	4	2,650部
2016年5月6日	60	5	2,650部
2016年6月1日	60	6	2,650部
2016年7月1日	60	7	2,650部
2016年8月1日	60	8	2,650部
2016年9月1日	60	9	2,650部
2016年10月1日	60	10	2,650部+3,000部（高校配布）
2016年11月1日	60	11	2,650部+3,000部（高校配布）
2016年12月1日	60	12	2,650部
2016年12月28日	61	1	2,650部
2017年2月1日	61	2	2,650部

2. 論文誌

論文誌（Journal of the Operations Research Society of Japan: JORSJ）、和文論文誌（Transactions of the Operations Research Society of Japan: TORSJ）を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
2016年3月	59	1	100部
2016年6月	59	2	100部
2016年9月	59	3	100部
2016年12月	59	4	100部
2016年12月（TORSJ）	59		50部
2017年1月	60	1	100部

なお、論文誌はインターネット上で無料公開しており、発行部数は紙媒体での部数のみを示している。

【研究部会による調査研究とその公表活動】

□事業の趣旨・内容

本事業は、研究部会による調査研究とその公表活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。調査研究にあたっては、専門の研究部会を組成し、主査・幹事が中心となり研究希望者を公募して行っている。

	常設部会	主査, 幹事	メンバー	開催(合同)	内 容	場 所
1	待ち行列	塩田茂雄 (千葉大学) 佐久間 大 (防衛大学校)	28名	7回 (1回)	計7回の部会を開催し、発表内容は、待ち行列、情報通信ネットワーク、生産システムなど多岐に亘っている。このうち1回は4部会（「確率モデルとその応用」、「信頼性」、「待ち行列」、「不確実性環境下の意思決定モデリング」）の合同で実施された。また、6月18日に第9回「学生・初学者のための待ち行列チュートリアル」、2017年1月19～21日に「2016年度待ち行列シンポジウム」を開催した。	東京工業大学 大岡山キャンパス
2	数理計画 (RAMP)	松井知己 (東京工業大学) 清見 礼 (横浜国立大学)	36名	1回	10月13, 14日に新潟大学附属図書館ライブラリーホールにてシンポジウムを開催した。テーマは「連続最適化とその周辺」、「数値解析と最適化」、「離散最適化とその拡がり」、「画像・信号処理」である。様々な分野の第一線でご活躍の先生方にご講演頂いた。	新潟大学附属 図書館ライブラリーホール
3	評価のOR	廣津信義 (順天堂大学) 施 建明 (東京理科大学)	12名	5回	年5回の定例研究会を開き、その内4回については、毎回2名の講演者を招くことで、DEAを主にORでの評価手法・意思決定手法に関して計8件の講演を行った。1回は学生発表会を企画し、博士・修士課程の学生6名の発表があり、学生奨励賞を授与した。また、春季・秋季研究発表会にて特別セッションを開催した。延参加者55名。	東京理科大学 森戸記念館
4	意思決定法	西澤一友 (日本大学) 杉浦 伸 (名城大学)	25名	5回	6月、9月、10月、11月、1月に研究部会を実施した。意思決定法の理論と新しい手法に対する理解を深めるとともに、政策評価やマネジメントへの柔軟かつ実用的な適用性を高めることにつとめた。	日本大学桜門 会館, 中京大学, 大阪商業 大学
5	サプライ チェーン戦略	米沢 隆 (日本IBM(株)) 草刈君子	40名	6回 (1回)	サプライチェーンにおける経営戦略、実施戦略、戦略的ビジネスプロセス、グローバルSCM, OR手法の適用について、事例と理論の両面から研究する。延べ参加者238名、詳細な活動内容に関しては http://scsr.jp/ 参照。	青山学院大学 総研ビル
	研究部会	主査, 幹事	メンバー	開催(合同)	内 容	場 所
1	安全・安心・ 強靱な社会と OR	神藤 猛 (内閣官房) 片山隆仁 (防衛技術協会)	20名	5回	国家の危機管理、特に安全・安心に対する強靱な社会基盤の構築、大規模災害からサイバー攻撃、感染症に至る多様なインシデントの有効な対処とその数理的解析、リスクや影響度等の解析を駆使した評価事例、政策立案等を紹介し普及を図った。	政策研究大学 院大学

2	確率モデルとその応用	穴太克則 (芝浦工業大学) 吉良知文 (九州大学) 堀口正之 (神奈川大学)	12名	7回 (3回)	本年度の講演は11件、さらに合同開催や国際会議、学会等で多数のご講演の機会ができました。メンバー間の研究討議も活発に行い、特に4部会合同の研究会では多くの方のご支援ご協力で大変盛況でした。	上智大学四谷キャンパス、神奈川大学横浜キャンパス・平塚キャンパス
3	信頼性	土肥 正 (広島大学) 田村信幸 (法政大学)	10名	7回 (1回)	信頼性をキーワードとして関東地方、関西地方、中国地方と全国津々浦々で7回の研究集会を開催した。OR周辺領域の産業界や大学等から講演者を招き、参加者間で活発な意見交換を行った。13件の招待講演と15件の一般研究発表があった。計6回の研究会の延参加者は121名であったが、他1回は国際会議の特別セッションとなっていたため、正確な人数を把握できなかった。	広島大学、首都大学東京、他
4	ビッグデータとマーケティング分析	鈴木秀男 (慶應義塾大学) 高野祐一 (専修大学) 横山 暁 (帝京大学)	12名	5回	「ファッションECサイトのID付POSデータ、および関連データ」のデータを提供した「データ解析コンペティション」を開催した。22チーム、延べ200人程度の参加者を得て、消費者属性と購買データに基づくマーケティング分析の発表と得られた知見について議論した。	慶應義塾大学矢上キャンパス、専修大学神田キャンパス
5	リーンマネジメントシステム	中島健一 (神奈川大学) 北條仁志 (大阪府立大学)	7名	5回 (2回)	製造業をはじめとして他の分野の諸問題にも適用できる徹底的な無駄の排除を念頭に置いた全体最適化に焦点を当て、リーンMSの普及と問題解決のためのモデリング手法や評価方法について意見交換および議論を行った。	横浜・大阪
6	アグリサプライチェーンマネジメント	蓮池 隆 (早稲田大学) 加島智子 (近畿大学)	6名	5回 (2回)	農作物の安定供給を合理的に行うために、作り手から消費者までの「食のサプライチェーン」を数理的に検証し、また情報科学技術を駆使した情報収集・活用システムについて客観的かつ多角的立場から議論した。	東京・広島・沖縄・富山・滋賀
7	最適化の基盤とフロンティア	岡本吉央 (電気通信大学) 奥野貴之 (東京理科大学)	10名	6回	定例会合を5回開催し、計10件の講演に、延べ110名が参加した。また、未来を担う若手研究者の集いを開催し、一般講演33件、特別講演1件、特別企画1件、参加者132名を数える盛会となった。一般講演から、最優秀発表賞2件、優秀発表賞8件の表彰も行った。	東京理科大学、筑波大学、慶應義塾大学、新潟大学
8	数理的発想とその実践	杉原一臣 (福井工業大学) 野際大介 (福井工業大学)	11名	5回	オペレーションズ・リサーチの根底にある「数理的アイデア」をキーワードとして、北陸地区において5回の研究集会を開催し、計14件の研究報告があった。周辺領域に関する講演も多数あり、分野の垣根を越えた活発な意見交換が行われた。	福井工業大学、石川四高記念文化交流館、サイエンスヒルズこまつ、他

9	不確実性環境下の意思決定モデリング	笠原正治 (奈良先端科学技術大学院大学) 中西真悟 (大阪工業大学)	20名	5回 (2回)	不確実性を伴う状況下で意思決定を行うための数理的アプローチとして、特に待ち行列、信頼性・保全性、生産・在庫、ゲーム理等に着目し、最近の研究動向に関する講演を中心に情報交換を行った。延参加者117名。	大阪工業大学、 常翔学園大阪センター
10	離散アルゴリズムの応用と理論	牧野和久 (京都大学) 井出陽子 (三菱重工業(株)) 澄田範奈 (国立情報学研究所)	14名	5回 (1回)	真に実用的なアルゴリズムの開発、またそれらを支える基礎理論を構築することをテーマに、企業と大学の両方から講師を招聘して5回の研究会を開催した。講演は12件、延参加者は約170名。	京都大学、 成蹊大学
11	ORによる大規模インフラストラクチャー分析	三浦英俊 (南山大学) 渡部大輔 (東京海洋大学)	19名	12回	地域の持続可能的発展を支えるインフラストラクチャーの要件、OR技法を用いた大規模インフラストラクチャーの計画、インフラストラクチャーにおける危機管理等の諸問題をORの視点から取り組んだ。延参加者132名。	日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団会議室

研究グループ	主査、幹事	メンバー	開催	内 容	場 所
地域課題解決のOR	鈴木 勉 (筑波大学) 石井儀光 (国立研究開発法人建築研究所)	50名	2回	サマー・セミナーを8月5日に筑波大学で開催し、12件の発表と37名の参加者があった。ウィンター・ワークショップを12月10、11日に南山大学で開催し、40件の発表と89名の参加者があった。	筑波大学、 南山大学

特設部会：オリンピック・パラリンピックとOR		主査、幹事	メンバー	開催	内 容	場 所
1	危機管理G	大山達雄 (政策研究大学院大学) 諸星穂積 (政策研究大学院大学)	8名	3回	オリンピックを中心とする大規模イベントに際しての交通対策、テロ対策、安全運営等に関する警備体制について、これまでの実施例、予防対策等を中心に実務担当者との情報交換、討議を行なった。またより一般的な安全対策についての研究成果についてもサーベイ、研究紹介を行い、全員で議論した。	政策研究大学院大学
2	エネルギーG	川島幸之助 (東京農工大学) 山上 伸 (東京ガス(株)) 北澤英理子 (東京ガス(株))	25名	8回	エネルギー源の多様化、エネルギーシステムの自由化、環境問題の克服という状況のもと、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおいて、電力等のエネルギーを安定的に供給するための課題について幅広く研究を進めた。	電力中央研究所(大手町)
3	施設・交通G	田口 東 (中央大学) 栗田 治 (慶應義塾大学)	14名	6回	2020年東京オリンピック・パラリンピックの輸送・交通に関する幅広い研究を行った。特に大会期間中の観戦客の流れを大規模な時空間ネットワークを用いて分析し、混雑緩和の方策についての様々な評価を行った。	中央大学後楽園キャンパス

【表彰活動】

□事業の趣旨・内容

本事業は、表彰活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

1. 春季表彰

(1) 第41回普及賞

- ・山下勝比拵（元（株）東芝）
- ・鈴木久敏（筑波大学（名誉））
- ・香田正人（筑波大学（名誉））

(2) 第40回実施賞

- ・（株）ブレインパッド

(3) 第17回業績賞

- ・該当者なし

(4) 秋季表彰

(1) 第6回研究賞

- ・武田朗子（東京大学 2016/4より統計数理研究所）

(2) 第6回研究賞奨励賞

- ・谷川眞一（京都大学数理解析研究所）
- ・河崎 亮（東京工業大学）

(3) 第36回事例研究賞

- ・高野祐一（専修大学）ら3人にて

(4) 第6回論文賞

- ・塩浦昭義（東京工業大学）ら2人にて

(5) 第34回学生論文賞

- ・岩政勇仁（修論 東京大学）
- ・霧生拓也（修論 慶應義塾大学）
- ・横尾知孝（修論 筑波大学）
- ・木村圭児（修論 九州大学）
- ・澤井佑樹（修論 名古屋大学）

【支部活動】

1. 北海道支部

活動	年月日	場所	内 容
総会	2016/4/8	小樽商大札幌サテライト	2015年度事業報告、決算、2016年度事業計画、予算、役員
サマースクール	2016/6/8～9	函館市地域まちづくりセンター	発表6件、講義2件、参加者：16名
講演会1	2016/10/28	小樽商大札幌サテライト	「粒子エージェントによる最適化アプローチ」加地太一（小樽商科大学） 「群知能と複雑系の制御」生天目 章（米空軍研究所科学技術局アジア事務所） 参加者：19名

講演会2	2017/1/27	小樽商大札幌サテライト	「データサイエンティストの思考法」岩田泰士（新日鉄住金ソリューションズ株式会社） 参加者：26名
ウィンターワークショップ	2017/2/20～24	札幌定山溪	発表24件，講演4件，参加者：38名

2. 東北支部

活動	年月日	場所	内 容
総会	2016/4/1	東北大学	H27年度事業報告，H27年度決算，H28年度事業計画など
講演会	2016/4/1	東北大学	「寄付行動における男女差について」鈴木明宏（山形大学）
セミナー	2016/11/20～21	東北大学	「東北ORセミナー若手研究交流会」東北地方を中心とした若手研究者の育成と学生会員数の増加を図るための研究発表会。1泊2日の合宿形式で、主として学生に研究発表と人的交流の場を提供します。個々の大学や研究室を超えた地域全体での若手研究者育成、および研究者同士の共同研究も視野に入れて東北地方の包括的な研究活性化を目的としている。詳細は下記サイト参照。http://www.akita-pu.ac.jp/system/mse/mis/inakawa/public/tors/seminar2016/program.html
研究会	2016/7/7	東北大学	「被災地でのOR教育と研究」舛井道晴（石巻専修大学）
	2017/1/19	東北大学	「複雑なマルコフ連鎖モデルを分割して解く方法について」笹沼克信（ニューヨーク州立大学）
会議	2016/4/1	東北大学	研究発表会実行委員会
	2016/7/23	山形大学	

3. 中部支部

活動	年月日	場所	内 容
総会	2016/3/5	愛知県立大学サテライトキャンパス	2016年度事業計画・予算・役員選出，審議・承認
第43回支部研究発表会	2016/3/5	愛知県立大学サテライトキャンパス	10件の発表，参加者59名
特別講演	2016/3/5	愛知県立大学サテライトキャンパス	「信頼性における多状態問題について」大鑄史男（名古屋工業大学）
第13回日本OR学会中部支部シンポジウム	2016/9/17	愛知県立大学サテライトキャンパス	「情報化時代の信頼性・安全性技術」田村慶信（山口大学大学院），後藤邦夫（南山大学），土肥 正（広島大学大学院工学研究院）
支部講演会	2016/6/11	名古屋工業大学	「離散凸解析に基づく機械学習手法について」前原貴憲（静岡大学） 「DEAによる店舗の商圈属性分析と品揃えについて」三浦英俊（南山大学） 参加者22名

支部講演会	2016/12/3	愛知県立大学サテライトキャンパス	「行列式点過程を用いた数値積分法とその応用」平尾将剛（愛知県立大学） 「医療分野のスケジューリング問題に対するオペレーションズ・リサーチの適用」伊藤真理（東京理科大学） 参加者34名
支部研究会	2016/6/22	名古屋大学	「How to solve Integer Optimization Problems with SCIP」Gregor Hendel（Zuse Institute Berlin） 「Towards Using over a Million CPU Cores to Solve Previously Unsolved Mixed Integer Programming Problem Instances」Yuji Shinano（Zuse Institute Berlin） 参加者23名
C3POセミナー	2016/12/20	愛知県立大学長久手キャンパス	「マルチエージェント・シミュレーションの応用とこれから」玉田正樹（(株)構造計画研究所名古屋支社） 参加者36名
C3POセミナー	2016/12/22	愛知県立大学長久手キャンパス	「敵行動推論（Adversarial Reasoning）を目指して—RoboCup小型リーグにおける検討—」成瀬 正（愛知県立大学） 参加者21名
C3POセミナー	2017/2/20	南山大学	「方向統計学における統計的分布とその推測」阿部俊弘（南山大学） 参加者10名

4. 関西支部

活動	年月日	場所	内 容
記念講演会	2016/3/5	関西学院大学大阪梅田キャンパス K.G.ハブスクエア大阪1407	「非線形計画問題，2次錐計画問題と多目的最適化問題における研究」，福田エレン秀美（京都大学） 「グラフ研磨手法を用いた特徴抽出」中原孝信（専修大学） 参加者：18名
第1回支部総会	2016/3/5	関西学院大学大阪梅田キャンパス K.G.ハブスクエア大阪1407	2015年度事業報告・決算および2016年度事業計画・予算などが承認された。出席者：20名，委任状：52通
支部研究講演会	2016/7/16	常翔学園大阪センター 301	テーマ：「ORの第一線で活躍する女性研究者たち」 題目と講演者： [1]「いろいろな『R&D for IH』問題」大野ゆう子（大阪大学） [2]「女性の視点からみたOR研究」井垣伸子（関西学院大学） [3]「学生アンケートを考慮した学習意欲向上のための授業設計」柴田淳子（神戸学院大学） [4]「レクトリニア配置問題」胡 艶楠（名古屋大学） [5]「動画広告割当のオンライン最適化」澄田範奈（国立情報学研究所） 参加者：38名

支部若手研究発表会	2016/10/29	関西大学うめきたラボラトリ	1. ポスターセッションA (前半) 2. ポスターセッションB (後半) 3. 特別講演 題目と講演者： [1]「情報システム性能評価に対する極値理論的アプローチ」 笠原正治 (奈良先端科学技術大学院大学) [2]「代数的マッチングアルゴリズム」山口勇太郎 (大阪大学) 発表論文数：13件, 参加者：35名 優秀研究発表賞受賞発表論文：3件
支部シンポジウム	2016/11/5	常翔学園大阪センター 301	テーマ「地方創生をORする～エビデンスを生かした戦略展開」 題目と講演者： [1]「政策情報を効果的に活用する政策形成」 高木昭美 (芝浦工業大学) [2]「地域の将来像 (ビジョン) のための合意形成の分析手法」 金 再奎 (琵琶湖環境科学研究センター) [3]「ディスティネーションマーケティング時代のツーリズム情報の収集と活用」大井達雄 (和歌山大学) [4]「地域住民の視点に基づく評価のあり方と具体的取組み」 草郷孝好 (関西大学) 参加者：21名
第4回ORセミナー	2016/12/10	大阪大学吹田キャンパス	テーマ：「統計分析の基本－データを用いて意思決定する方法を学ぼう」 題目と講演者： [1]「因果分析と要因探索のための多変量解析法」 山口和範 (立教大学) [2]「解析例でみる統計的モデリングのプロセス」 野村俊一 (東京工業大学) 参加者：45名
関西支部編集担当	2016/5/1		「オペレーションズ・リサーチ：経営の科学」vol. 61, no. 5, 2016 特集「個人情報保護法の改正とデータサイエンスの新潮流」
関西支部協賛4部会合同研究会	2016/10/15	常翔学園大阪センター	主催：「確率モデルとその応用」研究部会, 「信頼性」研究部会, 「待ち行列」研究部会, 「不確実性環境下の意思決定モデリング」研究部会, 協賛：日本OR学会関西支部 参加者：38名

5. 中国・四国支部

活動	年月日	場所	内容
支部総会	2016/3/26	県立広島大学	平成27年度支部活動・決算の報告, 平成28年度支部役員・活動計画・予算の承認
支部シンポジウム	2016/11/26	高松テルサ	中国・四国地区の大学生・大学院生を中心とする若手研究者が意見(研究)交換をする場を設ける目的で合宿形式のセミナーを開催した(参加者：19名)

支部研究部会	2016/5/20 2016/11/22 2017/1/20 2017/1/27	岡山コンベンションセンター 県立広島大学 鳥取大学 県立広島大学	部会名「ソフトウェアマネジメントと最適化」 主催講演会：1件（1/20開催分）（講師2名） 協賛講演会：3件（講師4名）
支部研究部会	2016/8/27 2016/12/10	広島工業大学 広島経済大学	部会名「SCM&サービス工学」主催講演会：2件（講師3名）
支部研究部会	2016/6/10 2017/2/8 2017/2/8	鳥取大学 鳥取大学 鳥取大学	部会名「コンパクトシティを目指す地方都市のモデル分析」 主催講演会：3件（講師3名）
講演会	2016/3/26 2016/8/10 2016/12/22 2017/2/10 2017/2/10	県立広島大学 広島大学 県立広島大学 広島大学 広島大学	講師：廣瀬英雄（広島工業大学） 講師：Yashwant K. Malaiya（Colorado State University） 講師：大橋 守（徳島大学） 講師：栗田多喜夫（広島大学） 講師：向谷博明（広島大学）
			その他、協賛事業1件

6. 九州支部

活動	年月日	場所	内 容
総会	2016/3/26	九州大学 西新プラザ	H27年度活動報告，H28年度活動計画，14名参加
講演会	2016/3/26	九州大学 西新プラザ	「電子ジャーナル購読計画の効率的な作成」梅谷俊治（大阪大学），15名参加
講演会	2016/7/16	北九州市立大学 ビジネススクールサテライトオフィス（北九州市）	「非加法的測度のエントロピーの公理と協力ゲームの解」本田あおい（九州工業大学），9名参加
研究会	2016/7/16	北九州市立大学 ビジネススクールサテライトオフィス（北九州市）	「IEEE802. 11acにおけるダイナミックチャンネルボンディングの待ち行列理論による性能評価」田村 瞳（福岡工業大学），9名参加
支部事業 （交流会）	2016/10/30～ 11/1	福岡工業大学 FITセミナーハウス（大分県由布市）	1泊2日合宿形式の九州地区における若手研究者中心の交流会，14件の研究発表，28名参加
講演会	2016/10/30	福岡工業大学 FITセミナーハウス（大分県由布市）	「待ち行列とランダムウォーク」小林正弘（東海大学），28名参加
講演会	2016/12/10	西南学院大学	「グラフ上の離散凸関数について」平井広志（東京大学），11名参加
研究会	2016/12/10	西南学院大学	「小売戦略評価のためのサービスサイエンス研究事例」梶井昌邦（福岡大学），11名参加

【会議】

1. 通常総会

開催年月日	議事事項	結果
2016.04.27 三菱重工業(株)本社	1. 2015年度事業報告の件 2. 2015年度収支計算報告および監査報告の件 3. 2016年度－2017年度役員承認の件	承認 〃 〃

2. 理事会（略）

【役員】

理事（非常勤）

定数：12人から18人（現在：18人）

任期：2年

監事（非常勤）

定数：2人（現在：2人）

任期：2年

【職員】（略）

【会員状況】

1. 2016年度通算（2016/03/01～2017/02/28）

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員A	賛助会員B	合計
2016.03.01	12	1663	250	32 (40)	16 (16)	1973
入会		63	124	2 (2)	2 (2)	191
退会		▲ 107	▲ 84	▲ 1	▲ 1	▲ 193
資格喪失		▲ 13				▲ 13
移動	学→正	31	▲ 31			
	正→学	▲ 2	2			
	正→名	1	▲ 1			
今年度増減	1	▲ 29	11	1 (1)	1 (1)	▲ 15
今次承認を含む 2017.02.28現在	13	1634	261	33 (41)	17 (17)	1958

() 内は口数

2. 支部別会員数

支部	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員A	賛助会員B	合計	前年比	
							個人	賛助
北海道		50	10			60	▲ 6	
東北	1	42	18			61	▲ 4	
中部		153	16	1		170	1	
関西	2	241	31	5		279	1	
中国・四国		96	5	1		102	▲ 5	
九州		85	25			110	2	
本部	10	967	156	26	17	1176	▲ 6	2
今次承認を含む 2017.02.28現在	13	1634	261	33	17	1958	▲ 17	2

2016年度決算報告および監査報告の件

貸借対照表

平成29年 2月28日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	33,504,086	21,964,836	11,539,250
未収会費	612,000	926,400	△ 314,400
未収金	744,341	891,540	△ 147,199
前払金	256,607	256,607	0
前払費用	21,490	479,323	△ 457,833
仮払金	500,000	500,000	0
流動資産合計	35,638,524	25,018,706	10,619,818
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	1,470,800	1,117,600	353,200
名簿作成準備積立金資産	500,000	500,000	0
国際協力積立金資産	15,000,000	15,000,000	0
表彰事業積立金資産	7,000,000	7,000,000	0
OA化積立金資産	8,380,000	8,380,000	0
OR事典積立金資産	4,000,000	4,000,000	0
特別研究積立金資産	0	5,000,000	△ 5,000,000
近藤賞基金引当資産	9,000,000	10,102,069	△ 1,102,069
公益事業充当資産	20,000,000	20,000,000	0
創立60周年記念事業準備資産	16,128,353	16,563,267	△ 434,914
I C C O P T 東京積立資産	0	6,000,000	△ 6,000,000
I C C O P T 東京大会資金	0	1,491,525	△ 1,491,525
若手OR研究者育成基金	10,800,110	12,000,000	△ 1,199,890
助成事業積立資産	5,000,000	0	5,000,000
リース資産	841,451	1,141,133	△ 299,682
特定資産合計	98,120,714	108,295,594	△ 10,174,880
(2) その他固定資産			
保証金	950,400	950,400	0
その他固定資産合計	950,400	950,400	0
固定資産合計	99,071,114	109,245,994	△ 10,174,880
資産合計	134,709,638	134,264,700	444,938
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	8,296	0	8,296
未払費用	405,651	559,498	△ 153,847
前受金	1,734,000	1,693,200	40,800
前受会費	19,514,643	19,907,600	△ 392,957
預り金	89,392	104,707	△ 15,315
未払消費税等	1,502,400	503,100	999,300
流動負債合計	23,254,382	22,768,105	486,277
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,470,800	1,117,600	353,200
リース債務	1,007,964	1,591,776	△ 583,812
固定負債合計	2,478,764	2,709,376	△ 230,612
負債合計	25,733,146	25,477,481	255,665
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	5,000,000	6,491,525	△ 1,491,525
指定正味財産合計	5,000,000	6,491,525	△ 1,491,525
(うち特定資産への充当額)	(5,000,000)	(6,491,525)	(△ 1,491,525)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(91,649,914)	(100,686,469)	(△ 9,036,555)
正味財産合計	103,976,492	102,295,694	1,680,798
負債及び正味財産合計	108,976,492	108,787,219	189,273
負債及び正味財産合計	134,709,638	134,264,700	444,938

正味財産増減計算書

平成28年 3月 1日から平成29年 2月28日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	24,512	23,773	739
受取利息	24,512	23,405	1,107
受取利息振替額	0	368	△ 368
受取入会金	148,400	225,300	△ 76,900
受取正会員入会金収入	69,900	150,300	△ 80,400
受取学生会員入会金収入	78,500	75,000	3,500
受取会費	28,220,600	28,697,100	△ 476,500
正会員受取会費収入	23,390,600	23,862,100	△ 471,500
学生会員受取会費収入	23,000	30,000	△ 7,000
賛助会員受取会費収入	4,807,000	4,805,000	2,000
事業収益	44,856,835	18,210,865	26,645,970
受取販売収益	3,014,233	3,237,440	△ 223,207
受取研究発表参加収入	3,693,000	3,894,000	△ 201,000
受取参加料	31,756,727	4,005,000	27,751,727
受取広告料	5,082,140	5,604,000	△ 521,860
受取受託料	1,000,000	1,000,000	0
受取掲載料	205,000	220,000	△ 15,000
受取著作権料	105,735	250,425	△ 144,690
受取補助金等	363,902	600,000	△ 236,098
受取寄付金	1,891,525	799,072	1,092,453
受取寄付金	400,000	0	400,000
受取寄付金振替額	1,491,525	799,072	692,453
雑収益	11,444	90,988	△ 79,544
受取利息	148	3,588	△ 3,440
雑収益	11,296	87,400	△ 76,104
経常収益計	75,517,218	48,647,098	26,870,120
(2) 経常費用			
事業費	69,781,851	40,526,231	29,255,620
給与手当	3,090,342	3,029,748	60,594
賞与	1,082,722	1,127,722	△ 45,000
臨時雇賃金	5,611,983	3,742,455	1,869,528
法定福利費	25,232	23,155	2,077
旅費交通費	4,880,545	1,697,202	3,183,343
通信運搬費	4,091,131	3,764,090	327,041
退職給付費用	407,880	182,880	225,000
消耗品費	3,382,274	1,467,143	1,915,131
会議費	17,021,950	4,210,441	12,811,509
印刷製本費	10,467,012	8,827,964	1,639,048
広告宣伝費	0	911,412	△ 911,412
賃借料	2,771,363	2,771,364	△ 1
保険料	3,420	27,945	△ 24,525
租税公課	1,502,400	503,100	999,300
支払負担金	2,851,640	0	2,851,640
諸謝金	5,829,691	5,283,767	545,924
委託費	4,105,235	2,300,456	1,804,779
支払手数料	1,495,405	255,857	1,239,548
減価償却費	269,714	269,714	0
貸倒損失	92,160	129,600	△ 37,440
雑費	799,752	216	799,536
管理費	4,054,569	4,551,552	△ 496,983
給与手当	343,368	336,636	6,732
賞与	120,302	125,302	△ 5,000
臨時雇賃金	323,734	293,015	30,719
法定福利費	2,803	2,572	231
旅費交通費	630,204	589,065	41,139
通信運搬費	38,881	318,724	△ 279,843
退職給付費用	45,320	20,320	25,000
消耗品費	94,950	75,367	19,583
会議費	310,285	449,004	△ 138,719
印刷製本費	19,494	19,464	30
賃借料	307,921	307,920	1
保険料	380	3,105	△ 2,725
租税公課	5,100	4,000	1,100
水道光熱費	227,709	235,498	△ 7,789
委託費	212,262	683,200	△ 470,938
支払手数料	24,505	42,633	△ 18,128
支払報酬料	620,786	388,800	231,986
諸会費	495,477	432,159	63,318
減価償却費	29,968	29,968	0
貸倒損失	138,240	194,400	△ 56,160
雑費	62,880	400	62,480
経常費用計	73,836,420	45,077,783	28,758,637
評価損益等調整前当期経常増減額	1,680,798	3,569,315	△ 1,888,517
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,680,798	3,569,315	△ 1,888,517
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,680,798	3,569,315	△ 1,888,517
一般正味財産期首残高	102,295,694	98,726,379	3,569,315
一般正味財産期末残高	103,976,492	102,295,694	1,680,798
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	1,200,000	△ 1,200,000
特定資産運用益	0	368	△ 368
一般正味財産への振替額	△ 1,491,525	△ 799,440	△ 692,085
当期指定正味財産増減額	△ 1,491,525	400,928	△ 1,892,453
指定正味財産期首残高	6,491,525	6,090,597	400,928
指定正味財産期末残高	5,000,000	6,491,525	△ 1,491,525
III 正味財産期末残高	108,976,492	108,787,219	189,273

2017-2018年度役員承認の件

会務役職	非改選役員	新役員
会 長	大山達雄 (政策研究大学院大学)	吉瀬章子 (筑波大学)
副 会 長	福村 聡 (JFEシステムズ(株))	堀田多加志 (日立製作所(株))
庶 務	大城直人 ((株)金融工学研究所)	今堀慎治 (中央大学)
国 際		武田朗子 (統計数理研究所)
研究普及	松本和宏 ((株)富士通研究所)	塩浦昭義 (東京工業大学)
編 集	滝根哲哉 (大阪大学)	猿渡康文 (筑波大学)
会 計	斉藤 努 ((株)構造計画研究所)	
渉 外	岩下 基 (千葉工業大学)	
広 報	藤本 衡 (東京電機大学)	
支 部		中山 明 (福島大学)
無 任 所	木村俊一 (関西大学)	田地宏一 (名古屋大学)
	松井泰子 (東海大学)	
監 事	佐賀井重雄 ((一財)電力中央研究所)	小沢利久 (駒澤大学)